

## 聖霊シリーズ「信仰の言葉」

### 1A 三つの種類の信仰

1B 救いへと導く信仰

2B 約束を信じる信仰

3B 大きな業を行う信仰

### 2A 神の下さる賜物

1B 搾り出さない信仰

2B いつも癒される訳でない事実

3B 神のみに帰される栄光

4B 今日、必要な賜物

## 本文

私たちの聖霊の学びは、コリント第一 12 章 9 節に入ります。前回までは、8 節を見ていきました。知恵の言葉と知識の言葉です。「言葉」が与えられるという、言葉に関わる賜物でした。9 節は、もっと「力の現れ」に関わる賜物です。「またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、」

私たちは、御霊が働かれる時に、それは本質的に力の現れであることを知る必要があります。ギリシヤ人ならではの知性に偏った信仰に対してパウロがこう言いました。「1コリント 1:18 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」こうも言っています。「2:4 そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。」言葉によって伝えるのですが、力が現れるのです。したがって、9 節また 10 節に列挙されている賜物、信仰、癒し、そして奇蹟を行なう力はとても大切な部分になります。

### 1A 三つの種類の信仰

#### 1B 救いへと導く信仰

今晚は信仰の賜物に注目したいですが、「信仰」と言ってもいくつかの種類があります。一つは、「救いに至らせる信仰」です。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることはないためです。(エペソ 2:8-9)」神がキリストによって私たちを救ってくださるという、その約束を信じる信仰です。イエスの御名を信じるなら、犯した罪はみな赦され、清められ、神の子どもとなる特権が与えられます。イエス様は、ニコデモにこのように話されました。「ヨハネ 3:14-16 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」神は、実に、そのひとり子をお与えにな

ったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」信じる者が永遠の命を持つ、という信仰です。

そして私たちは、このことを心で信じて、そして口で告白することによって救われるということを信じています。「ローマ 10:9-10 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」私たちはこのことをはっきりさせるために、人々がイエス様を信じたいと願うなら、イエスが主であることを口にしてお祈りするよう導きます。この前、一人の女性の方がこの祈りを捧げた時に、それを見ていた姉妹が仰っていましたね、「こんなに単純なんですね。」多くの聖書の知識を得て、それで説得して理解させなければいけないと思われていたのですが、救われるためには信じるということだけなのだということを知る機会となりました。

## 2B 約束を信じる信仰

そして私たちが信仰を持つという時に、救われるための信仰だけではないことを知っています。神の御言葉にある約束が実現することを信じる信仰です。神がご自分の民となった者たちに、恵みと真実によって言葉を与えてくださっています。それを喜んで受け入れ、堅く保ち、最後までその確信を持って、あきらめないという信仰です。旧約時代の人々は、「この信仰によって称賛されました。(ヘブル 11:2)」とあります。

弟子たちの問題は、イエス様の言葉の約束が実現することを信じられなかったことであります。イエス様は、十字架に付けられる前に、何度となく弟子たちに、「三日目によみがえります。」と伝えていました。けれども、三日目に墓に行ったのは、女たちでした。その彼女たちにイエスはご自身を示されました。マグダラのマリヤにも個人的に現われてくださいました。このことを女もマリヤも伝えたのですが、「彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。(マルコ 16:11)」とあります。けれども、「14 節 しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いているところに現われて、彼らの不信仰とかたくなな心をお責めになった。それは、彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったからである。」そして、こうも言われました。「ルカ 24:25 ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」預言者たちのすべてを信じなかった、と言っています。信じていても、すべてを信じていなかったのです。

アブラハムの信仰(ローマ 4:19-21)もあります。

ですから、この類いの信仰は増すことができるし、成長することができます。主との交わりを積んでいくことによって、この方がいかに真実であるかを知って、それで信頼が増し加わり、この方が語られるならばその通りになると信じることができるのです。「ユダ 20-21 しかし、愛する人々よ。

あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。」パウロは新しく信じたテサロニケ人のことを思って、「信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています。(1テサロニケ 3:10)」と言いました、信仰が成長するように祈っているんですね。

### 3B 大きな業を行う信仰

けれども、この二つの種類の信仰は、ここコリント第一 12 章 9 節でパウロが列挙しているものとは異なります。9 節また 10 節で、信仰の賜物が、癒しの賜物、そして奇蹟を行なう力に関連して話しているからです。これは、癒しや奇蹟などの大きな力を神が働かせると信じる信仰のことです。エリヤのバアルの預言者と対決して祈った祈りに、その信仰が表れています。「ささげ物をささげるところになると、預言者エリヤは進み出て言った。「1列王 18:36-39 アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行なったということが、きょう、明らかになりますように。私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようになしてください。」すると、主の火が降って来て、全焼のいけにえと、たきぎと、石と、ちりとを焼き尽くし、みぞの水もなめ尽くしてしまった。民はみな、これを見て、ひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です。」と言った。」奇蹟を行なう時に、主がそれをしてくださるという信仰が、エリヤに与えられました。

イエス様の癒しの働きの時に、癒しを受ける人々に信仰が与えられています。その代表例は、長血を患う女です。会堂管理者ヤイロがイエス様のところに来て、娘が病にかかっている、死んでしまうかもしれないと言って、イエス様に来てくださるよう懇願しました。ところが群衆がイエス様に付いてきました。押し合いへし合いの状態でありましたが、長血を患う女が、イエス様の着物のふさにでも触れば、癒されると信じて触りました。すると、「わたしに触ったのは、誰ですか。」と尋ねました。ペテロが、「群衆があなたに押し迫っているのです。それなのに、わたしに触ったのは誰かと尋ねられるのですか。」と言いました。イエス様は、「いや、わたしの力が出て行ったのを感じた。」と答えられたのです。そして女が自分の身に起こったことをすべて明かしました。するとイエス様が、「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。(マルコ 5:34)」と言われました。

同じように、娘が悪霊に取りつかれていると言われて、付いてきたツロの女がいました。イエス様は、「子どもたちのパンを取り上げて、子犬に投げてやるのはよくないことです。」と言われましたね。けれども、女は、「主よ。そのとおりです。ただ、子犬でも主人の食卓から落ちるパンはいただきます。」と言いました。イエス様は、「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。(マタイ 15:28)」と言われました。イエス様への信仰が与えられていたのです。それで、その時に娘が癒されました。同じように、エリコを出て行かれる時に、盲人のバルテマイという乞食がイ

イエスのところに来て、そしてイエスは、「わたしに何をしてほしいのか。」と尋ねられると、「先生。目が見えるようになることです。」と答えました。するとイエスは、「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。(マルコ 10:52)」と言われました。そして目が開きました。

## **2A 神の下さる賜物**

この信仰は、神から賜物として与えられます。使徒の働きにおいて、はっきりとペテロがそのことを明言しました。ヨハネといっしょに祈りに行った時に、美しの門のところで四十歳ぐらいの生まれつき足なえが物乞いをしていました。そして、彼に対して、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」と言って、彼の右手を取って立たせました。そして、この人が、歩いたり跳ねたりしながら、神を賛美しつつ、宮の中に入っていく二人について行きました。それを見た人々が、美しの門に座っていた男だと気づいて、非常に驚いて、彼らのところにやって来ました。ペテロがこれを見て、人々に向かってこう言ったのです。「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたように、私たちを見つめるのですか。(使徒 3:12)」こういって、イエスを宣べ伝えました。そして、「そして、このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で完全なからだにしたのです。(16節)」イエスによって与えられる信仰、とはっきりと言っています。癒されると信じることさえ、神によって与えられたということです。

使徒たちが選んだ七人の執事がいます。彼らを選んだ時の資格は、「信仰と聖霊とに満ちた人」でありました(使徒 6:5)。聖霊も神からの賜物ですが、聖霊の満たされることが、信仰の賜物に満ちていることによって成し遂げられていました。それで、ステパノは「恵みと力とに満ち、人々の間で、すばらしい不思議なわざとするしを行なっていた。(8節)」とあります。

そしてパウロがルステラで宣教の働きをしている時にも、興味深い記述があります。「ルステラでこのことであるが、ある足のきかない人がすわっていた。彼は生まれながらの足なえで、歩いたことがなかった。この人がパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼に目を留め、いやされる信仰があるのを見て、大声で、「自分の足で、まっすぐに立ちなさい。」と言った。すると彼は飛び上がって、歩き出した。(使徒 14:8-10)」パウロは、この時に見分ける賜物を用いていました。霊を見分ける賜物については後日学びますが、ここでは、足なえの中に癒される信仰があるのを見分けました。そして、「自分の足で、まっすぐに立ちなさい。」と言います。そして、パウロはガラテヤにある教会に対して、こう言っています。「3:5 とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇蹟を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうなされたのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。」奇蹟が、信仰をもって共に働いたのです。

## **1B 搾り出さない信仰**

私たちはしばしば、信仰の賜物について考える時に、これを絞り出して生み出さなければいけな

いと考えてしまいます。信じることのできる状態になってこそ、このような奇蹟や癒しが起こるのだと思うのです。けれども、それでは自分たちの信心深さ、自分たちの信じる力によるものになってしまい、神からの賜物ではなくなってしまいます。このことを教えるために、イエス様は「からし種ほどの信仰」について教えられました。

ルカによる福音書 17 章には、弟子たちに兄弟を赦すことについて教えられ増した。一日に七度罪を犯しても、七度、赦してくださいというならば、赦してやりなさいと言われます。そんなことできない、と弟子たちはとっさに思いました。それで、「私たちの信仰を増してください。」と言うのです。信仰が増し加えられるのであれば、人をそのように赦すことができると思ったのです。多くの人々がそのように言い訳しますね、主に命じられていることができないけれども、神が信仰を増してくださるならそれをできるかもしれないと。しかしイエス様はこう言われます。「ルカ 17:6 しかし主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があったなら、この桑の木に、『根こそぎ海の中に植われ。』と言えば、言いつけどおりになるのです。」からし種というのは、粉のように小さな一粒です。ものすごく小さいです。そんな小さな信仰であっても、桑の木が根こそぎ、海の中に植われ、と命じるならばその通りになるのです。要は、自分が信じるように努力するのではなく、神に言われたことを聞き、それに従うということであります。

牧者チャック・スミスのお話をすれば、このことがよく理解できます。彼が日曜の朝の礼拝の後に、若い子たちが車椅子のおじいさんを押して、彼の前に連れて来ました。そして祈ってほしいと頼みました。チャックは当然、癒されて歩くことができるようにと願っているものと思いました。それで、祈りました。「主よ。あなたは、すばらしいお方で、何でもおできになる方です。私たちは強くとも弱くとも、助けることがおできになります。どうか、助けてください。この人に触れてください。すべての名にまさる主イエス・キリストの御名によって・・・」という類いのことを祈りました。すると、その人を車椅子から立ち上がらせ、歩くように命じている強い促しを感じたそうです。それで、「アーメン。」と言った後に、自分でも何をしているのか分からなかったそうですが、分かっていたらやらなかったでしょうが、この人を立たせたのです。「イエスの御名によって、歩きなさい。」と言いました。すると、歩き始めました。ほっとしたそうです。そして、孫たちは、とても興奮して逆立ちしそうになっていました。おじいさんが歩けなくなって、もう五年になるそうです。そして、こう言ったのです。「でも、風邪を引いたので、風邪が直されるように祈ってもらおうと思っていました。」チャックは、「もっと具体的に言ってくれよ。」と思いましたが、良かったです。

けれども、次の水曜日の夜、他の教会で説教の奉仕をしました。そして男性が車椅子の妻を連れてきて、「妻は脳溢血になりました。癒されて歩けるようになるように、祈ってください。」と頼みました。すぐにその前の日曜日に起こった出来事を思い出しました。彼女の上を手を置いて、この前の祈りを思い出そうとしても思い出せず、彼女の肩を軽くたたいて、「神の祝福がありますように。続けて祈ります。主は何でもおできになる方です。」と言いました。そして、彼の息子が後で尋ねたのです。「お父さん、なぜこの前の日曜日のように、車椅子から女の人を立たせなかったの？」チ

ヤックは答えました。「主が、そのようにする信仰を下さらなかったのだよ。」

## 2B いつも癒される訳でない事実

実は聖書の時代も、使徒の時代も、癒されるための信仰がいつも与えられていた訳ではないことを知ることは大事です。神の主権的な恵みと働きによって、特別な時に与えられていたのです。使徒の働きを読むと、絶えず奇跡の業が起こっているように見えますが、実は著者ルカが三十年ぐらいの期間に起こったことを、あのようまとめたのであり、癒しが起こっていない時もたくさんあったことを知ることは大事です。パウロを通して多くの奇蹟が起こっていました。エルサレムでは、異邦人の間に神が行ってくださったことを証言しました(使徒 15:12)。エペソでは、自分の汗拭きを取って病人の上に置くと、その人が癒されたことまで書いてあります(19:12)。けれども、彼はテモテに、胃の病気のために少量のぶどう酒を飲むように勧めています(1テモテ 5:23)。また、エパフロデトが死にかけたことについても、ピリピ書 2 章 27 節で言及しています。共に働いていたトロピモが病気になったのでミレトに残しておいた、とも言っています(2テモテ 4:20)。そしてパウロ自身が、肉体に棘が与えられたことを言及しています(2コリント 12:7-10)。

パウロはこれを持って、自分が不信仰であるとか、あるいは他の癒されない人が不信仰であるかと思いませんでした。ですから、しばしば誤解される、信仰が与えられれば必ず癒されるというものではないのです。神の主権の中で賜物が与えられ、特別な時に、特別な状況の時に、神がご自分の聖霊によって力を現されるのです。ですから、知恵の言葉もそうですし、知識の言葉もそうであったように、信仰の賜物も御霊の御心のままに与えられるものであるということです。

使徒の働き 12 章を読むと、ヘロデが教会に手を伸ばし、使徒ヤコブを殺したことが書かれています。そして、それがユダヤ人に気に入ったのを見て、ペテロを捕えて、次の日に処刑するつもりでした。教会は、ペテロのために熱心に祈っていました。そして御使いがやってきて、鎖を解き放ち、看守が寝ている間に彼は出ていくことができました。そしてマルコの母マリヤの家に行って、その祈っている仲間たちに自分が牢屋から出てきたことを報告しにいこうとしました。ところが、中にいる者たちは、「そんなことはない。彼の御使いなのではないか。」と言って、信じませんでした。祈っていたのに、信じていなかったのです。

ここで考えてみましょう。ペテロは信仰的だったから牢から出てこれたのでしょうか。そしてヤコブは、不信仰だったからヘロデに殺されたのでしょうか？ 私たちも、イスラム国に捕えられた後藤さんのために祈り、21 人のエジプト人クリスチャンのために祈りましたが殺されました。今、イランの牢屋にいるサイド牧師のためにも祈っています。信仰のある人が解放されて、殺される人はそうではないかという、決して違います。聖霊の賜物は、病や苦しみからいつも解放するということを保証しないのです。もちろん、素晴らしい働きを見ればそれは興奮することです。驚き叫ぶことです。けれども、苦しみを通して、殉教を通して神はご自分の栄光を現すこともあるのです。「ヘブル 11:33-38 彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行ない、約束のものを得、ししの口を

ふさぎ、火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。女たちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないで拷問を受けました。また、ほかの人たちは、あざけられ、むちで打たれ、さらに鎖につながれ、牢に入れられるめに会い、また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、・・この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした。・・荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。」

### 3B 神のみに帰される栄光

私たちは、神が圧倒的な主権をもって業を行われることを示すために、このようにされるのです。私たちが決して自分たちのがんばり、搾り出しで信仰を持っているの出はないことを示すためにそうされます。ギデオンのことを思い出してください、ミデヤン人には 13 万 5 千人の兵士がいましたが、イスラエル人は 3 万 2 千人の屍いがいました。神は「人が多すぎる」と言われました。すると、兵の三分の二が去っていきました。そして、「ギデオン、まだまだ人が多すぎる。」そうって、ハロデの泉で膝をかがめずに水を飲んだ三百人だけで戦いなさいと命じられたのです。主が、こんな小さな軍勢にされたのは、ミデヤン人に勝った時に自分の力でやったと言わせないためです。

### 4B 今日、必要な賜物

私たちは今、大きな挑戦を受けています。今日の教会に、信仰の賜物が必要です。癒しや奇蹟が教会に欠けているために、他の宗教にそれを求める傾向にあります。私たちはそれを絞り出すことはできませんが、主がご自身が願われている賜物を受けるように、熱心に求めていくべきです。そして、そういう働きによって信仰に近づく人々が起こされることを願ってやみません。